

# 温州ミカンの収量の年次変動

## 第1報 せん定の影響

濱口壽幸・岸野 功(長崎県果樹試験場)

HAMAGUCHI, T. and I. KISHINO: Yearly Changes in Yield in Satsuma Mandarin. 1 Effects of Pruning

樹令別収量のせん定による違いを明らかにするため、1966年より調査を続けてきたので、その概要について報告する。

### 1. 調査方法

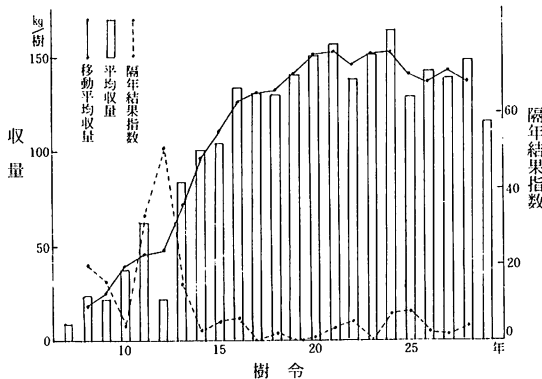
当場で1966年から実施してきた林系と伊木力系の無せん定、隔年せん定、連年せん定各2樹について、樹令別の移動平均収量と隔年結果指数を求めた。なお、移動平均収量、隔年結果指数は非口による次式で求めた。

$$\text{移動平均収量} = \frac{(\text{前年収量}) + 2 \times (\text{本年収量}) + (\text{翌年収量})}{4}$$

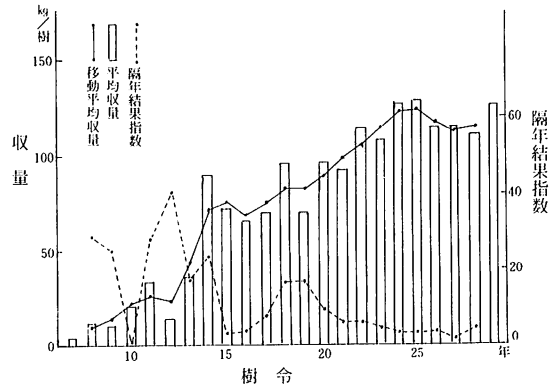
$$\text{隔年結果指数} = \left| \frac{(\text{収量} - \text{移動平均収量})}{\text{移動平均収量}} \times 100 \right|$$

### 2. 結果及び考察

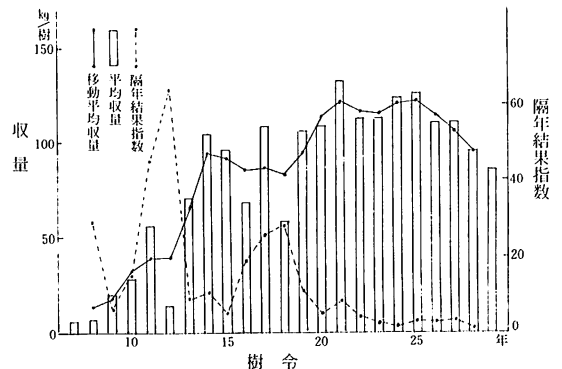
(1)収量の推移は、移動平均収量が樹令20年生前後でほぼ最高に達し、その後はわずかに増減する早期安定型と、樹令25年生前後まで増加する後期安定型に分けられた。(2)連年せん定樹は早期安定型を、隔年せん定樹は後期安定型を示し、最高収量はいずれも1樹当たりほぼ120kgであった。(3)無せん定樹では、林系は早期安定型で最高収量は1樹当たり150kg、伊木力系は後期安定型で120kgであった。(4)隔年結果指数は、無せん定林系では早くから小さく、他はほぼ20年生までは大きく、それ以降は小さくなる傾向にあった。



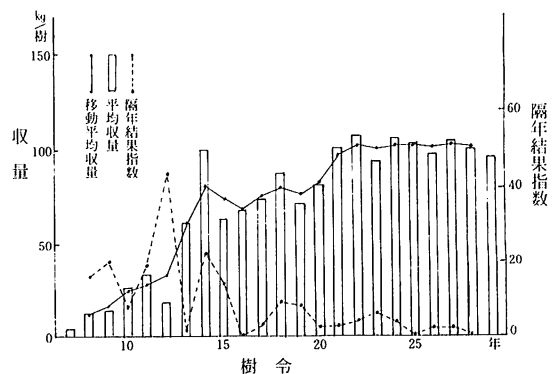
第1図 林温州無せん定樹の収量と隔年結果の推移



第2図 伊木力系温州無せん定樹の収量と隔年結果の推移



第3図 林温州連年せん定樹の収量と隔年結果の推移



第4図 伊木力系温州連年せん定樹の収量と隔年結果の推移